令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　　城東区

学 校 名　　大阪市立榎並小学校

学校長名　　梅山　仁美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和７年４月17日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・大阪市立榎並小学校では、第６学年６２名

学校名　大阪市立榎並小学校

令和７年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

［国語］平均正答率は、大阪市平均より3ポイント、全国平均より1.2ポイント高い。領域別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で大阪市平均より7.7ポイント、全国平均より7.8ポイント上回っている。「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域でも大阪市、全国平均を上回っている。平均無回答率は全国平均より1.6ポイント低い。
［算数］平均正答率は、大阪市、全国平均より8ポイント高い。全ての領域で大阪市、全国平均を上回っている。無回答率は全国平均より1.3ポイント低い。
［理科］平均正答率は、大阪市平均より9ポイント、全国平均より6.9ポイント高い。全ての領域で大阪市、全国平均を上回っている。無回答率は大阪市平均より0.8ポイント低い。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］文の中で正しく漢字を使うことができており、インタビューで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えたり、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたりすることができている。また、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けて文章を書くこともできている。しかし「工夫すること」が趣旨の出題においては大阪市、全国平均より下回っている。このことから、基礎学力の上に自分の考えをもち材料を活用する力はついてきたが、より上手に伝えるために工夫するところまでには至っていないといえる。
［算数］選択式、短答式、記述式の問題形式がある中で、記述式の正答率が大阪市平均より14.9ポイント、全国平均より14.3ポイントも上回っている。「数と計算」「図形」等５つある領域の全てで算数的な考えを文章にする力がついている。
［理科］「生命」を柱とする領域では、大阪市平均より15.5ポイント、全国平均より12.5ポイント上回っている。記述式の問題は全国平均より10ポイント近く高い。自然現象や科学的な仕組みについて、自分の言葉で説明できていることから、学習内容が定着しているといえる。

質問調査より

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目において、肯定的回答の割合が大阪市平均72.8%、全国平均84.9%に対し、90.1%と上回っている。これは昨年度から引き続き日々の授業の中でペアトーク、グループトークを多く取り入れた学習活動の成果であるといえる。しかし、「学校の授業時間以外に、普段１日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の項目において、「30分より少ない」と答えた割合が大阪市28.6%、全国18.6%に対し32.8%であった。この結果から、自主学習の取組を推進しているが、自ら課題を見つけ学ぶ姿勢と家庭学習の定着にまだ課題があるといえる。

今後の取組(アクションプラン)

○主に大阪市学力経年調査の結果を活用し、児童の課題を明確にし、学年間の系統立てた学習活動に取り組んでいく。
○国語科を中心に、自分の考えがより伝わるように工夫する力を身に付けるようにするために、普段の授業から話し合いの視点を明確にする。
○自主学習ノートや一人一台端末を活用した家庭学習の工夫を図る。
○学校の取組を家庭や地域に発信し、学習面や生活面の課題・成果を共有して、より一層連携を取りながら、さまざまなことに意欲的に取り組み、最後まであきらめずにやり通す児童の育成に取り組んでいく。